



東京多摩プロバスニュース

第 51 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：広報委員会 2013. 11. 6.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

コミュニティプロバス…わが街・多摩を次世代へ

第 111 回 定例会

日 時：平成 25 年 9 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所：関戸公民館第 2 学習室

出席者：32 名(会員数 35 名)

第 112 回 定例会・昼食会

日 時：平成 25 年 10 月 2 日(水)午前 12 時 30 分より

場 所：赤坂飯店

出席者：28 名(会員数 35 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

子供達から学ぶ

幹事 北村克彦

多摩プロバスクラブは、理念として地域社会への奉仕をうたっています。その一つとして、多摩市の推進している「ESD 教育」に協力して、各学校からの要請に対し、会員の持つ知識と経験を具体的な指導テーマをもって応える活動をしています。

私は今年の 6 月に、震災から 2 年を経た東北の方々に向けて、メキシコの家庭料理で現地の子供達がシェフに扮してお迎えするという企画に参加しました。復興に向けて日夜苦勞されている現地の人達には、子供は[希望]であり、子供に未来を託そうとする切実な想いがあります。日常生活の復旧もままならない中で、震災前まで子供達が続けていたソロバン教室や英会話教室などを優先して再開させる努力をされているのもその表れです。

石巻まちなか復興マルシェに設けられた「メキシコ料理レストラン」で子供達は、最初はオーダー取や注文を受けた料理を運ぶことだけをやっていましたが、「タコライス残り 15 食」という目標を共有した途端、クレヨンで宣伝ポスターを作り、それを持



って皆で協力して会場中を走り回ってお客さんから注文を取り、用意した料理をすべて売ってきたのです。その表情は生き生きとして楽しそうでした。私も含めこの催しに参加したメンバーは、役割が人を育て、目標が働く喜びを生み出すのだとあらためて子供達から教えられました。また、そうして生き生きと走り回る子供達の姿が、大人達をいかに勇気づけるかを目の当たりにしました。

2050 年の大人を育てるという大きな目標に向けて、私達大人も、一方的に教えるというだけでなく、新しいことを学ぶ気持ちで子供達と接することも大事だと思いました。



心いやされる黄葉のトウカエデ並木(多摩市愛宕南通り)

1. 幹事報告

北村克彦幹事

1.1. 全日本プロバス協議会からのアンケートに回答

①当クラブで抱えている課題

- ・多方面の分野からの入会者の勧誘
- ・サークル活動などの会員相互の交流、親睦の活性化
- ・定例会の会場確保

②当クラブの活動事業例

- ・外部講師による講話
- ・他クラブとの交流卓話(八王子⇄多摩)
- ・年2回の昼食会
- ・多摩市中学生俳句大会への協賛
- ・市内小、中、高校への出前授業
- ・社会人対象の伝統文化サロン
- ・クラブ創立5周年事業
- ・多摩プロバスクラブフェア2010の開催
- ・社会見学会の実施
- ・プロバスニュースの発行配布とHPの公開更新

1.2. 9月末承諾された会友

片山満子さん、蓮池守一さん、松永弘さん、山田喜一さんの4名。未回答の方で今後承諾のご返事をいただいたら、その都度受付ます。

1.3. TIC(多摩市国際交流センター)からの要請

当クラブはTICの賛助会員となりました。

1.4. 全日本プロバス協議会新体制への第一回理事会

9月27日に横浜市で開催され、平田哲郎、滝川益男両会員が同協議会の幹事として出席しました。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

神谷真一委員長

1)9月度定例会(9月4日)

お客様：全日本プロバス協議会幹事長 森山功様

卓話：滝川道子会員による「江戸しぐさ」今日から身につく粋なマナー」のテーマで実施。 関連記事 P3 参照。

2)10月度定例会(10月2日)

京王デパート8階の赤坂飯店にて昼食会、定例会議事ならびに座談会「これからのプロバスクラブに期待すること」のテーマで実施。 関連記事 P3 参照。

3)11月度定例会(11月6日)

お客様：澤雄二様(入会希望者)

講話：元会員で会友の山田喜一様から「介護」についてのお話をさせていただきます。



総務委員会の皆さん

2. 研修・親睦委員会

上田清委員長

1)相模原市立博物館と宇宙航空研究所の見学会

10月23日(水)で21名が参加予定。プラネタリウムは、学校からの予約があつて入館できないこととなりました。

2) 御岳山ハイキングと御岳溪谷散策

11月13日(水)で13名が参加予定。

2.3. 地域奉仕委員会

大澤亘委員長

1)創立10周年記念事業第1回講演会(関戸公民館と共催)

東大名誉教授・理学博士 瀬川爾朗先生の「首都直下型地震とそれを取り巻く環太平洋地殻変動」と題する講演会を11月10日(日)14時から関戸公民館大会議室で開催。講師は日野PCの副会長でもあり、地球物理学・海洋物理学の立場から立川断層を初め首都直下地震について解説されます。

2)創立10周年記念事業第2回講演会(関戸公民館と共催)

NHK テレビの天気予報でお馴染みの村山貢司気象予報士(多摩市在住)による最近の異常気象に関する講演会を来年2月9日(日)14時から同じく関戸公民館大会議室で開催。

2.4. 広報委員会

平田哲郎委員長

1)第51号プロバスニュースの編集の概要について説明。

2)創立10周年記念で広報委員会の担当内容について説明。

- ・記念式典当日配布のプロバスニュース第54号編集発行。
- ・“10年の歩み”を式典参列者に配布するレジメ作成と式典会場でプレゼンテーションするパワーポイント作成。
- ・祝賀会で上映するビデオ作成。
- ・式典終了後“東京多摩プロバスクラブ創立10周年記念誌”の編集発行。

3. 創立10周年記念事業<多摩プロバスかるた>づくり

山田正司リーダー

昨年度に実施された創立10周年記念事業プロジェクト報告に従って、本年5月より<多摩プロバスかるた>づくりがスタートしました。会員全員の総力によって、10周年の節目の年に、地元多摩のまちづくりのために少しでも貢献しようとの試みです。まずは読み札の内容を2ヶ月間をかけて匿名(数に制限なし)で募集し、7月定例会で締め切り222句集まりました。これは5セット分(1セット46句)にも相当する数で会員の熱意の高さの証です。取りまとめの実務は奉仕委員会が中心となって作業チーム(5名)が編成され、理事会全員で協議して進めています。先の8月定例会で約1時間かけて出席者全員による選別調査を実施し、各自45句以内を条件に<おくにかるた>に相応しい内容重視で選別してもらいました。その集計結果は9月定例会で人気度の高い句53句が提示され、その後1ヶ月を掛けて読み札46句の選別・修正・補足を行いました。作業チームの実務と理事会でのチェックを経て10月定例会でH25・9案が発表されました。現在はこの46句の絵札原稿の作成中です。予定では来年1月中旬に完了し、印刷工程を経て5月の記念式典に間に合わせる段取りとなっています。

「江戸しぐさ」と「おもてなし」の心

滝川道子会員

「江戸しぐさ」を定例会の卓話にとのお話をいただいたとき、ちょっと戸惑いがありました。と申しますのも、多摩プロバスの会員お一人おひとりが、見識が高く、ご自分を持っていらっしゃる方ばかりですので、教訓めいたお話は果してどうなのかしら、と思ったからです。しばし逡巡したのち、「江戸しぐさ」とはじつは上に立つ者のしぐさであり、現在では経団連の会長や各界のトップに当たる方々が率先して始めたしぐさですから、皆様にもピッタリのはずとの思いに至りました。



当日はレジメに沿ってお話させていただきましたが、皆様真剣に聴いてくださり、後半のパフォーマンスでの、「傘かしげ」や「うかつ謝り」のしぐさにもご長老に出演していただき、実際にやって見せていただきました。「して嬉しい」「されて嬉しい」「見て嬉しい」江戸しぐさは、たんなる知識ではなく、実学なのです。後日、池田寛会員から、「初めて“江戸しぐさ”と聞いたときは踊りの振りかと思っただが、実際には心の中の思いなのです」との嬉しい感想をいただきました。

あの日お話しできなかった部分ですが、徳川家康が秀吉の命を受けて江戸にはいる途中、箱根の山から眼下に広がる相模湾・江戸湾、そして広い関東平野を眺めて詠んだ句があります。「水清く入江のありて真魚豊か、四方見渡せる商いの町」家康の慧眼には広い海に沢山の魚、豊かな食糧があり、そして関東平野に繁盛する商いの町が見えたのかもしれませんが。ちなみに、真魚という言葉は現在では「まな板」となり、江戸の人々は「おんまないた」、稚児は「おんまいた」と言っていたそうです。

268 年間も平和が続いた江戸時代は、世界史の中でも稀有な時代だったそうです。「花のお江戸」と呼ばれた戦の無い江戸。その自治は町方に任せられ、一握りの「町衆」と呼ばれた大店の旦那衆がリーダーとして、江戸の町を繁栄させました。

「江戸しぐさ」の数は八百とも八千とも言われます。異文化の垣塙であった江戸の町、「外つ国づきあい」「尊異論」という、相手を理解しようとするしぐさや「さしのべしぐさ」等々は「今しぐさ」として現代にも通じるものばかりです。7 年後に東京で開催が決まったオリンピックには世界中の外国人をお迎えします。ハード面での名所旧跡の訪問とソフト面での「おもてなし」。国民一人ひとりの思い遣り、気遣い、気働き、優しさが、本当の「おもてなし」なのだと私は思います。

◆◆◆ 座 談 会 ◆◆◆

「これからのプロバスクラブに期待すること」

神谷真一総務委員長

10 月 2 日(水)の第 112 回定例会は京王デパート 8 階の赤坂飯店で開催し、昼食会と定例会議事を済ませ座談会を行いました。参加会員 28 名は、3 つの円形テーブルを囲み「これからのプロバスクラブに期待すること」のテーマで日頃思っていることを自由に話し合っていたいただき、それぞれのテーブルに総務と研修の委員会より 1 名ずつ計 6 名で記録を取り、その詳細結果を後日纏めて発表します。また、当日約 6 年前、第 4 期の会長職を引き受けるに当たった平田哲郎広報委員長の調査した資料を配布し、その頃の会員の意識は親睦活動に対する平均が 65%、奉仕活動に対する平均が 35%という結果がうかがわれていました。以下は、座談会での一部の意見を紹介します。

◇会員の増強について：現在会員数 35 名(内休会者 3 名)ですが、多方面の分野の経験者を勧誘したらどうか。

◇研修・親睦について：食事会など年に数回は家族も参加できるようにしたらどうか。従来、忘年会だけ配偶者の参加を呼び掛け実施している。各種施設の見学は現在行われていて大変良い研修になっている。また、公園



などの歩こう会は楽しい行事になっている。

◇地域奉仕について：当クラブではそろばん授業・しつけ授業・日本の古来よりの文化活動(茶道・貝合わせ)など ESD 活動では積極的に取り組んできたし、継続したい。

◇サークル活動について：会員の高齢化により動きの激しいスポーツなどができなくなっている。ウォーキングなどが適当かもしれない。最近の“歌を楽しむ会”の活動はみんなが楽しめるサークルとなりそうだ。その他グルメ・ゴルフ・料理・俳句(鈿句会)も活発だ。他の団体(多摩市国際交流センター・多摩ウォーキングクラブなど)の活動にどんどん参加するのも良いことだ。その他単発のもの(例、ハゼ釣り・陶芸・写真撮影)や自然発生的なものを増やしたらどうか? 中でもハゼ釣りの希望者が多かった。

◇◇◇ 10周年記念事業状況 ◇◇◇

10周年記念事業スタート 大澤亘地域奉仕委員長

来年5月の当クラブ創立10周年記念日があと6か月余りに近づいた。当日の式典・祝賀会、10周年を契機として行う記念事業・広報活動のいずれもすでに各委員会の今年度事業計画の中に取り込まれ準備が進められている。

まず、「多摩かるた」については山田正司リーダーの下でプロジェクトを編成し、すでに会員の応募作品の選考が終わっている(関連記事P2参照)。

関戸公民館との共催による市民企画講座については、地域奉仕委員会により、瀬川爾朗東大名誉教授の首都直下地震に関するもの、村山貢司気象予報士による最近の異常気象に関するものの二つの講演会開催を決め、11月10日(日)瀬川先生の講演会で記念事業の第1弾をスタートさせる。

広報委員会では、10周年記念誌の発行や式典の中で当クラブの活動報告のためのパワーポイント「10年の歩み」並びに祝賀会で上映するビデオの作成を準備中である。

◇◇◇ 新サークル紹介 ◇◇◇

「歌を楽しむ会」

瀬尾日出男会員

炎暑の8月に、歌を楽しむ仲間が「ひじり館」に集まり、夫々がお得意のノドを披露しあいました。最初ということもあり、気楽に「昼カラオケ」の感じで軍歌あり、演歌ありと参加者の過ぎし日を想い出しながら楽しい時間を過ごしました。



これを機にサークル活動化しようと9月の会では、中村会員の軽快なウクレレ伴奏により、時代を反映した曲やハワイアンメロディなどを歌い、笑い声の絶えない会となりました。10月の会には少々人数も少なかったのですが、アカペラで青春歌謡・ハワイアン・童謡・唱歌などを歌い、日頃あまり大きな声を出す機会が無くなって来た皆さんに、少しでも多くの機会を作り出したいと企画してみました。このような活動を是非継続させ、皆さんと共に楽しんでいければ良いなと考えております。

◇◇◇ 会友紹介 ◇◇◇

会友制度制定

大澤亘会員

会友または名誉会員の制度の新設についてはこれまでも定例会で検討したことがあるが、時間的制約などもあって成案までに至らなかった。そこで平成24年度ではまず理事会で国内の他のプロバスクラブはじめ各種団体の規定を調査し議論を重ねて理事会案をまとめ、定例会に提案して会員の皆さんの意見を聴いたうえ、平成25年度定期総会で会則を一部改定して正式にこの制度を新設した。

これにより当クラブを退会される会員は原則としてすべて会友として処遇することとし、会員名簿にその氏名を記載し、プロバスニュースを贈呈するほか当クラブが主催する行事にお誘いすることとした。今回すでに退会された方々にご案内した結果、右の4名の方が初会友となった。



片山満子氏



蓮池守一氏



松永弘氏



山田喜一氏

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

“誕生日を迎えられました”



写真左：左から9月誕生の
鈴木達夫・増山敏夫・登坂征一郎
関根正敏 各会員

写真右：左から10月誕生の
藤寄喬子・中村昭夫 各会員





私の一品



一鉢の花



吉岡喜久恵会員

我が家の台所の出窓の花台には、今日もゼラニウムの赤い花が咲いています。これは、普通のゼラニウムですが、私にとっては、かけがえのないお花です。

その日、私が買い物に行った留守中に、学校から帰宅した娘が自転車で何処かへ出掛けたようで、ランドセルだけが玄関に置いてありました。しばらくして、娘がゼラニウムの鉢を抱えて帰って来ました。

「これ、母の日のプレゼント」と言って、渡してくれました。話を聞いてみると、2キロほど離れた商店街までカーネーションを買いに行ったのです。

所がどこのお店も、彼女のお小遣いでは買えない値段でした。(当時、母の日のカーネーションは値段が高く、現在のように一年中販売されていませんでした)そこで、彼女は赤いお花で、手に握ったコインで買えるお花を探したそうです。しかし、ゼラニウムという名は初めて聞く花なので、お店の人にレシートの裏にその名前を書いて貰って、大切に持ち帰って来たとのこと。私は嬉しさのあまり涙が出ました。

このお花は、どこにでもある普通のお花ですが、私にとっては、特別なお花なのです。毎日、その日のことを思い出しながら、水やりと手入れをしており、30年経った今でも、赤い花をつけております。その娘も、今では結婚して、鹿児島で暮らしております。



会員の活動



多摩ウォーキングクラブ

倉賀野武士会員

当クラブは、10年ほど前の多摩市主催のウォーキング講座の終了時に、当プロバスクラブの鈴木(達)会員等受講生が立ち上げたクラブで会員数17名。当プロバスクラブの増山会長や岡野会員と私を含め4名が会員となっている。

隔月に多摩近郊のウォーキングを楽しんでいる。過去には富士山登頂の猛者もいたが、現在のご多分にもれずメンバーの高齢化により、10km前後の距離を設定している。

例外として毎年、多摩市主催の「新春歩こう会」に参加し、登戸から川崎大師まで多摩川沿いの約20kmがややハードの方である。今までに歩いた所は、奥多摩・玉川上水



野川の源流から河口まで・深大寺・昭和記念公園・少し遠出して山手線一周・東京マラソンコース等がある。

今年7月には皇居東御苑～北の丸公園～靖国神社、9月には千歳烏山の寺町通りを歩いた。規約等の縛りも無く、和気藹々なクラブである。増山会長からの助言もあり、当クラブ会員の参加を歓迎致します。

タマピカル「永山フェスティバル」に出演

平田哲郎会員



今回で16回目となる多摩市主催の音楽祭「永山フェスティバル」が9月22・23日の2日間にわた

り多摩市永山グリーンロードで開催され、9月22日に当クラブ

の中村昭夫会員の率いるタマピカルが出演しました。好天に恵まれたマクドナルド前ステージで約30分、女性ヴォーカリスト二人のハーモニーを中心にした懐かしいメロディーの熱演に観客もどんどん増え、熱気が感じられました。中でも特に惹かれたのは、同グループのメンバーが共同で作詞、作曲した新曲「行こうMy永山」が素晴らしく、熱演を一段と盛り上げていたことでした。

多摩ダンディーズ「永山フェスティバル」に出演

中村昭夫会員

同じく9月23日には男声カルテット多摩ダンディーズもベルブ永山の3階喫茶コーナーの隣のサロン会場にて出演。「シクラメンの香り」、「小指の想い出」など3～40年前の歌謡曲を軸とし



て外国の曲を含め12曲演奏しました。聴衆の方々は50～60代の人たちが多く結構共感していただきました。この催しにダンディーズは3年前より出演しています。

ちぎり絵展

神谷真一会員

9月5日(木)～10日(火)の6日間京王デパート5Fブリッジギャラリーにて、恒例の展示会が開催され、私は五作品を出品。右の作品は今年5月に荻句会の吟行で、上高地を訪ねた時の風景です。なお、私が師事しているちぎり絵の先生は、日本で初めて「ちぎり絵」を広めた岡本町子氏です。



ちぎり絵「上高地」

“第二のふるさと多摩”と私

西村政晃会員

私は、鳥取県米子市から8キロほど中国山地に入った農村に生まれました。伯耆富士とも呼ばれる名峰大山（だいせん、1,711m）の西の山麓で、朝な夕なに富士山そっくりのその山容を見て育ちました。近くには日野川という大きな川が流れ、学校から帰るとカバンを放り投げて川へ魚とりに出かけたり、裏山へ野鳥狩りに行ったり、家で飼っていた馬に乗ったり、勉強などそっちのけ自然にドップリ浸る少年時代を送りました。

その後、米子の高校、千葉の大学で学校生活を送り昭和41年3月に卒業、食品メーカーに就職しました。住まいは3カ所変わり、昭和55年5月、多摩の住人になりました。

きっかけは、昭和54年3月、山田正司会員の企画、設計された住宅公団のタウンハウス諏訪が売り出され、画期的な庭付き集合住宅として大評判になりました。翌55年5月タウンハウスの二つめが永山で売りだされ、300倍の競争率になりましたが幸運にも当選、今も住み続けています。

後年、当クラブの山田会員からタウンハウスの設計コンセプト“住民同士のコミュニケーションが極めて良くなる、防犯に優れている、一人住まいのお年寄りも安心して暮らせる”等お聞きし、33年間暮らしてみても実感しています。

私は33年前に多摩の住民になったものの、現役の頃

は、お定まりの自宅と会社の往復で、地域コミュニティに知己は少なく、自然に触れることもない生活でした。7年前に会社をリタイアしましたが、幸い当プロバスクラブへ仲間入りさせていただき、多才な会員の皆様と楽しく過ごさせていただいています。多摩の自然も開発から長い年月が経って緑豊かになり、昔からの里山もいくつか保全されて興味深い植物、動物の宝庫になっています。希少植物となったタマノカンアオイ、キンラン、野鳥もシジュウカラ、メジロ、ウグイス、オナガと枚挙にいとまがないほどです。



タウンハウスの共同中庭

冒頭で述べた鳥取の故郷も忘れがたいですが、自宅の窓から望む富士山に“伯耆富士”を重ねながら、今又多摩を“第二のふるさと”として楽しく日々を送っています。

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

◇◇◇

編集後記

◇◇◇

●今年もあと2ヶ月、今更ながら、歳を取ると月日の経つのが早く、持ち時間が少なくなる。

明日は原生会のスケッチ旅行だ。会は多摩市及び近郊の60歳以上の男性のみの集まりで、年に一度、市内の公共ギャラリーで作品の発表展示している。発足は多摩が市となった頃で、そろそろ50年の歴史を持ち多摩で最も古い絵のグループとなる。鴻池敬和、山田正司両会員もメンバーで、油絵、水彩画の名手として個性的な作品を発表されている。

●今春、庭のケヤキに巣箱を掛けた。時々、四十雀が覗いているが、使ってくれない。息子たちが子供のころ、40年前、2〜3回雛が巣立っていったのだが——。彼らの世界も住宅過剰で選り好みしているのか。来春、再度、挑戦しよう。

(広報委員 岡野一馬)